

NPO法人 くにたち農園の会 2023 概況報告書 (農園事業編)

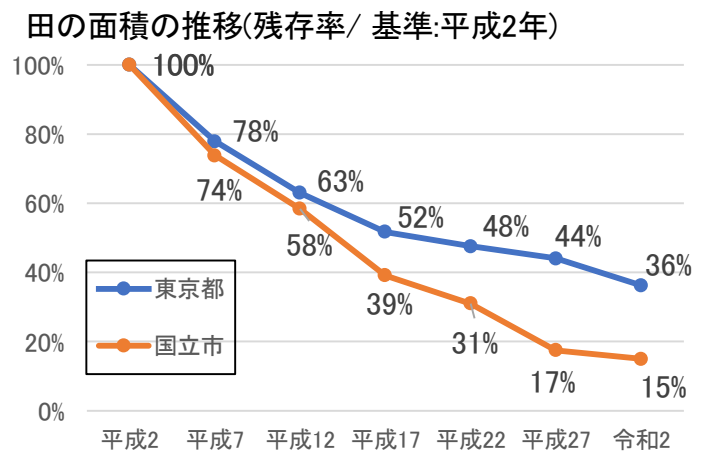
発行: 2023年12月
NPO法人 くにたち農園の会
〒186-0011
東京都国立市谷保5119(やぼろじ内)
☎042-505-7200
HP: <https://hatakenbo.org>

「NPO法人 くにたち農園の会」につきまして
くにたち農園の会は2013年にコミュニティ農園「くにたち はたけんぼ」を開園、2016年にNPO法人として設立。現在、「くにたち はたけんぼ」を筆頭に、「子育て古民家 つちのこや」「ゲストハウス ここたまや」「認定こども園富士見台団地 風の子」「レンタルスペース 畑の家」と5つの事業を展開。「くにたち はたけんぼ」には年間 7000人超、すべての事業所を合わせると年間累計10000人以上の方々を迎えています。私たちは「耕そう！遊ぼう！つかみ穫ろう！東京の田畑で育つ生きる力」をテーマに、「土に根差し 共に育つ たくましい地域を次世代へ」の実現を目指して、「農体験」と「子育て」を2本柱に、「多様な人々への農や自然 体験の提供」と「0～12歳までの田畑とつながる子育て支援」を実践しています。
(くにたち農園の会ホームページ <https://hatakenbo.org/>)

国立市の田んぼは 30年間で85%減少している！

右グラフのとおり、平成2年(1990)から令和2年(2020)までの30年間に於いて、田の面積は東京都の36%の残存率(減少率64%)に対して、国立市の残存率はその半以下の15%(減少率85%)、残念ながら東京全体よりもはるかに激減している！

出典: 資料*1 (東京都農林水産統計データ 令和3年) P2
資料*2 (統計くにたち 2021) P105



農家継続にも多い悩み！

農業継続の意向は、94.5%を占めるが、その期間に関しては「自分の代は継続する」が過半数と厳しい状況であり、逆に「継続できる状況ではない」と言った状況も4%ある。

上記の要因としては、「相続税の問題」、「自分の健康問題」がともに過半数を超えており、高齢化による農業継続が課題となっている

出典: 資料*3 (国立市第3次農業振興計画 平成29年) P69

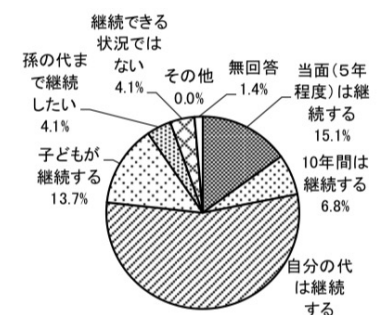
国立市民の殆どが農地保全を希望、 農業・農地に多くの期待

農地の利用として、95.3%もの市民が農業保全を希望、とくに「今ある農地は出来るだけ多く残してほしい」が全体のほぼ半数を占めている。

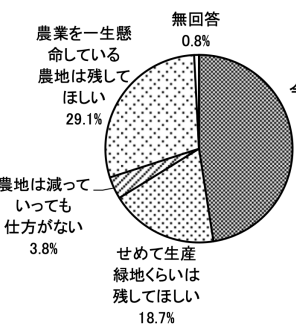
また、市民の約3/4がその農業・農地に対する期待として「環境の保全」と「新鮮な農作物の供給」を挙げ、いかに現状の自然環境が価値あるものか、また都下では貴重かつ宝とも言える米・野菜の地場農作物の生産地としての価値は大きい

出典: 資料*3 (国立市第3次農業振興計画 平成29年) P74

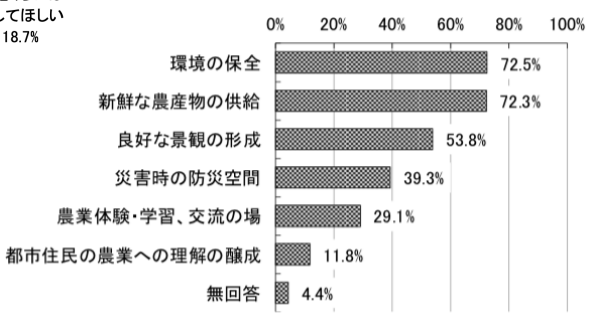
農業継続意向



農地の利用について



農業・農地への期待



東京都のど真ん中、国立の奇跡！

—— 水、田んぼ、野菜

国立市の北側は一ツ橋大学を中心とした学園都市を形成していますが、その南側には水田・農地が広がっています。JR南武線谷保駅周辺から畑があり、谷保天神坂下、駅から徒歩約10分のところに今でも広々とした水田が広がっています。これは市の南側にある崖線(現地ではハケと呼ぶ)があり、現在でもそこから滔々と清水が湧き出ているのです。加えて多摩川からの府中用水の水により、水田が作られています。東京都のど真ん中かつ駅近の田んぼはまさに奇跡の存在と言えるかと…。そこで作られる米は「天神米」と名付けられたブランド米となっています。さらに周辺には多くの畑もあり、そこで作られた野菜は「くにたち野菜」として好評を博しています。



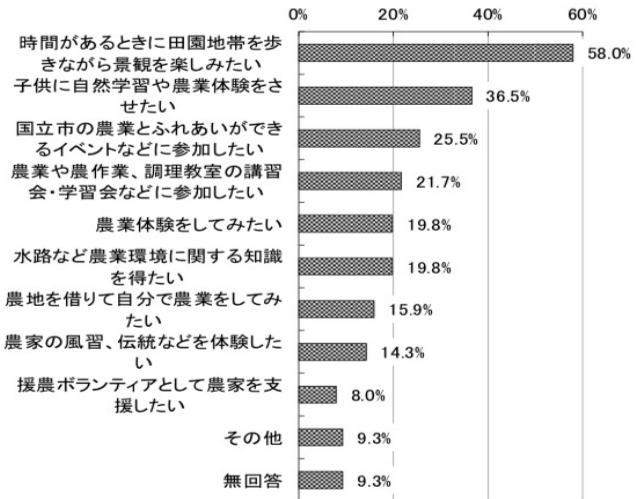
望まれている農業・農地との交流

—— 特に景観と子どもの農業体験

農業・農家のとのふれあいとして**58.0%の市民が「田園地帯を歩きながら景観を楽しみたい」を望んでいる。**次いで**36.5%の市民が「子どもの農業体験」を望んでいる。** 出典:資料*3 (国立市第3次農業振興計画 平成29年) P73



農業、農家とのふれあい、交流の内容

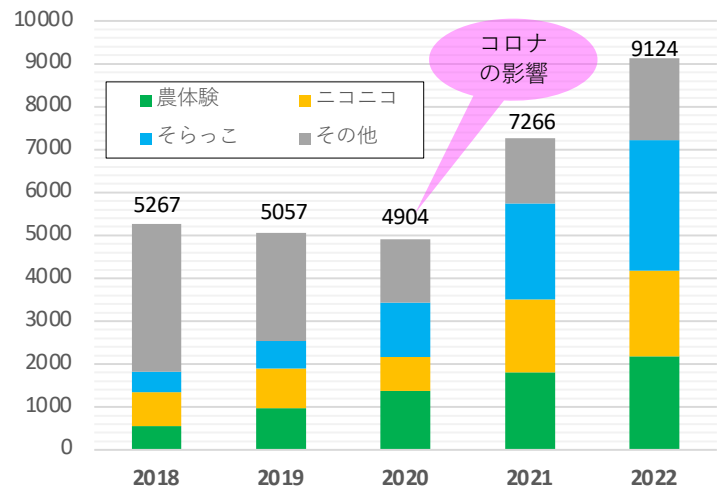


「くにたちはたけんぼ」での農業/農地体験者実績

2020と2021年度はコロナの影響もありましたが、2022年度にはその利用者数も回復かつ増加しています。特にここ数年は私たちが目指す「農と子育て」関連の体験者が顕著に増えた事は、皆様から私たちの活動が認めて頂いた証と確信いたしております。

はたけんぼの利用/体験者数(2022年度)
 =農体験(親子+大人田んぼ): 2,143名
 =放課後クラブ(ニコニコ): 1,999名
 =森のようちえん(そらっこ): 3,040名
 =その他*: 1,942名 合計9,124名
 *: どろまみれ、オープンハウス、観光等

「はたけんぼ」の利用者推移



「くにたち農園の会」が果たす役割、実現したいこと。

都心から車で20分、中央高速道路国立府中インター直下の谷保地域に広がる田んぼと青い空。開放的で豊かな空間は、地域や子どもたちにとってはもちろんのこと、人が生きる上で大切な資源です。身近な自然環境としての農地が存在することは、子どもたちの心身の成長、自尊心の向上を助けると共に、四季を感じさせる風景が地域住民を癒し、防災拠点などの活動の場としても大きな意義を持っています。私たちの農園には、毎年7,000名を超える方々が訪れ、子どもたちも大人も農に親しみ、そして思い切り遊び時にはぶつかり合いながらも、日々共に成長しているのを目にし、感じています。しかし、都市の農地は住宅に囲まれ、農業者の高齢化、相続税など一人では到底変革しえない大きな課題を抱えています。国立市の農地も同じく、特に水田はこの30年で85%減少しており、今も住宅開発が進んでいるのが現状です。この価値ある環境を活かし、子どもたちの成長を支援すると同時に、土や自然が豊かに残る地域を目指しています。

